

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17903

研究課題名(和文)近代日本における柔術の展開 史・資料の収集と分析を中心に

研究課題名(英文)Historical study on the development of jujutsu in modern Japan : focusing on the collection and analysis of historical materials

研究代表者

工藤 龍太 (Kudo, Ryuta)

早稲田大学・スポーツ科学大学院・講師(任期付)

研究者番号：40717211

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間全体を通じた研究の成果は以下の通りである。山形県・東京都・福岡県で現地調査・聞き取り調査・史料の収集を行なった。精力善用国民体育の受容者の反応について、学会発表を実施した。この成果に至る過程で、1940年に講道館で設置された研究会の活動を調査し、投稿論文として刊行した。昭和戦前期に柔道界で探求された当身技については、投稿論文として刊行した。大東流と相生流合気柔術の伝書を比較し、合気道と大東流の連続性について考察した内容を国際学会で発表し、英語論文として刊行した。

と に関して、大東流合気柔術については、収集・保存した史料をふまえ、資料集として令和5年度に刊行される予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、柔道・剣道といった種目に代表される、体育・競技スポーツ以外の文化的価値を武道に求めた人々が存在したことが判明した。近代以降の柔術には武術性などの価値が求められており、同時代の競技スポーツ化が進展する柔道との差異を強調しつつ、ときに密接に関連しながら今日まで存続していったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The research findings over the entire research period are as follows. (1) Field research, interviews and collection of historical documents were conducted in Yamagata, Tokyo and Fukuoka Prefectures. (2) Conference presentations were made on the reactions of the "Seiryoku-Zenyo-Kokumin-Taiiku". In the process of reaching these results, the activities of the study group established at the Kodokan in 1940 were investigated and published as an academic paper. The techniques of striking explored in the judo world in the pre-war period of the Showa era were published as contributed papers. (3) A comparison of the historical records of Daito-ryu and Aioi-ryu Aikijujutsu, and a discussion of the continuity between Aikido and Daito-ryu, was presented at an international conference and published as an English paper.

With regard to (1) and (3), a collection of documents on Daito-ryu Aikijujutsu will be published in 2023, based on the historical materials collected and preserved.

研究分野：武道論

キーワード：柔術 柔道 大東流合気柔術 合気道 技術史 社会史

1. 研究開始当初の背景

これまでの近代以降の日本の武道についての歴史的研究では、柔道と剣道を対象とした研究が数多くなされてきた。柔道は創始者・嘉納治五郎(1860-1938)が遺した数多くの著述が存在し、剣道は明治28(1895)年に組織された大日本武徳会の関係史料が存在するなど、歴史的研究に適した環境が整えられていたからである。また、両種目は学校体育の実技種目として早くから採用されており、公に認知された武道種目であるということも、研究の蓄積を促してきた。その結果、柔道・剣道共に、武術が旧弊とみなされた明治時代以降の近代日本において、体育・スポーツとしての存在価値を見出し、それに適合するように展開していった。つまり、柔道と剣道の近代史は、体育・スポーツ化の歴史であったといえる。

その一方で、柔道に昇華されなかった数多くの柔術流派も近代以降に存在していたのであるが、柔術から柔道を創始した嘉納の「柔術は、維新の後講道館柔道となって新なる形式に於いて実現した外、何等進歩発達はして居らぬと断言しても差支ないと思ふ。」「維新以後の柔道の歴史を書くものは講道館柔道の発達史を書くより外に材料はない」(1926年)という発言が象徴的に示しているように、史料の不足により歴史的研究の対象から外れ、今日までその事態が継続している。その結果、近代以降の柔術史研究は、研究の前提となる資料の収集作業の段階において、柔道や剣道と比較して大きく立ち遅れているのが現状である。

以上の研究状況をふまえて、本研究では、近代以降の武道にはこれまでの研究の主対象であった柔道と剣道が持っていた、体育・スポーツ以外の文化的価値があるのではないかと、そしてその価値はどのような人々によって支えられてきたのか、という問題を設定した。同時に、その問いに答えるための各種史・資料を収集することがまず必要であることが明確になった。

2. 研究の目的

上記の背景をふまえて、本研究では近代日本における体育・スポーツ以外の武道の文化的価値を明らかにするための基礎作業として、柔術の関係史・資料を収集・保存すると同時に、その分析を通じて柔術の展開過程を解明することを目的とする。

具体的には、現代武道の一種目である合気道の源流となった大東流合気柔術(以下「大東流」と講道館柔道(以下「柔道」)を事例に、戦前の日本における柔術の展開過程について以下の課題を設定する。大東流関係史料の所蔵地へ赴き、史料目録を作成すると同時に、史料をデジタル化して保存する。で収集した史料を分析しながら、大東流がどのような人々を対象に、どのように普及していったかを解明する。柔道の武術性(無限定の攻撃に対処する実戦性)を求める人々がどのような活動をし、展開していったかを解明する。

3. 研究の方法

本研究では歴史学の方法を採用して、上記の課題 から について、以下の方法を適用した。

東京都在住の大東流合気柔術の指導者が所蔵する柔術関係の史・資料を分類整理し、文献目録を作成する。また、山形県最上郡に存在する個人所有の蔵の中にも、柔術伝書が多く保管されているという情報を得たため、ここでも同様の作業を実施する。本研究では、嘉納治五郎が最後に創始した「精力善用国民体育」の形に注目する。この形は従来の柔道の形と異なり、競技では禁止された当身技の習得が目標の1つとされており、また一対一ではなく、集団体操のように指導することも可能な、画期的なものであった。嘉納が理想的な柔道の形とまで評した、この形がどのように普及していったのか、一方で受容する側はどのように受け止めていったのかを各種資料から調査する。同時に、その他の形稽古全体に対する嘉納と修行者たちの間の武術性をめぐる認識の相違を考察することで、柔道における武術性の探求の動向を解明する。大東流に関しては、で述べた東京都在住の指導者が保存する大東流の史料の中の『英名録』と『謝礼録』を用いて、大東流がどのような人々の間で普及していったのかを考察する。大東流の中興の祖とされる武田惣角(1859-1943)は、門人帳である『英名録』と指導の謝礼を記した『謝礼録』に弟子たちに署名捺印させながら全国を指導した。大東流は競技化せず、形稽古のみの稽古形態で普及していったが、弟子の中には、大臣、将校、裁判官、警察署長、武徳会師範などの名が見られる。彼らが支払った謝礼は、当時の柔道を習得するために必要な金銭と比較して高額であるが、それを当時の物価事情などと比較しながら通年的に調査することで、大東流を求める人々の社会階層が明らかになる。

4. 研究成果

研究期間全体を通じた研究の成果は以下の通りである。山形県最上郡・東京都・福岡県福岡市で現地調査・聞き取り調査・史料の収集を行なった。山形県の調査では、残念ながら柔術関係の史料を発見することはできなかったが、調査の中で、大東流合気柔術の中興の祖である武田惣角が当該地域にやってきた経緯の概略を把握できた。東京都在住の柔術関係史・資料の所蔵家の持

つ史料は多く、全てを本研究期間に調査することは困難であることが明らかになった。その中で、大東流合気柔術の重要かつ基本的な史料を修復・保存することができた。福岡県の柔術道場では、同柔術流派の伝統的な稽古方法を見学することができた。この道場にも、研究期間中に調査することができない多くの柔術関係史料が所蔵されていることが判明した。今後も調査を継続していく。

精力善用国民体育の受容者の反応について、学会発表を実施した。この成果に至る過程で、1940年に講道館で設置された研究会の活動を調査し、その成果を投稿論文として刊行した。昭和戦前期に柔道界で探求された当身技については、投稿論文として刊行した。また、昭和戦前期の貴重な一次史料を一点閲覧・複写し、その内容を基に学会発表を行なった。

大東流とそこから派生した相生流合気柔術の伝書を比較し、合気道と大東流の連続性について考察した内容を国際学会で発表し、英語論文として刊行した。

と に関して、大東流合気柔術については、収集・保存した史料をふまえ、資料集として令和5年度に刊行される予定である。

本研究を通じて、近代以降の柔術には当初仮定した体育・スポーツ以外の価値（武術性など）を求める人々が存在したことが判明した。今後は、その詳細をさらに分析していくことで、新たな武道文化論を展開することが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 工藤龍太	4. 巻 91巻9号
2. 論文標題 科学のページ 昭和戦前期における「武術としての柔道」論の 展開：当身技の研究に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 柔道	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤龍太	4. 巻 第52巻 第2号
2. 論文標題 昭和戦前期における「武術としての柔道」論の展開：当身技の研究に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武道学研究	6. 最初と最後の頁 39-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤龍太	4. 巻 17
2. 論文標題 1940年に講道館に設置された「形研究会」の歴史的意味：嘉納治五郎の形の構想と「武術としての柔道」論の継承に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 講道館柔道科学研究会紀要	6. 最初と最後の頁 19,37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 工藤龍太
2. 発表標題 講道館で制定された形の比較研究：1940年と1956年に着目して
3. 学会等名 日本武道学会第54回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 工藤龍太
2. 発表標題 講道館で制定された形の比較研究：南郷時代から講道館護身術制定（1956）に着目して
3. 学会等名 日本武道学会柔道専門分科会研究会「戦中・戦後の柔道界：南郷時代を中心に」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 工藤龍太
2. 発表標題 近代日本柔術史研究の展望
3. 学会等名 スポーツ文化研究会2021
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ryuta Kudo
2. 発表標題 A historical study of the formative process of Aikido as a modern Budo: Focusing on the continuity and the discontinuity of jujutsu.
3. 学会等名 19th ISHPES CONGRESS in Münster. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤龍太
2. 発表標題 戦前における精力善用国民体育の展開：嘉納治五郎の構想と受容者の反応に着目して
3. 学会等名 日本体育学会第69回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤龍太
2. 発表標題 昭和戦前期における「武術としての柔道」論の展開：当身技の研究に着目して
3. 学会等名 日本武道学会第51回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Kudo Ryuta	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer VS, Wiesbaden	5. 総ページ数 16
3. 書名 「A historical study of the formative process of Aikido as a modern Budo: Focusing on the continuity and the discontinuity of jujutsu」(『Sportgeschichte in Deutschland』所収)	

1. 著者名 大東流合気柔術 真武館 五十周年記念誌編集委員会(編集責任者・工藤龍太)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 有限会社青青編集	5. 総ページ数 -
3. 書名 大東流合気柔術 真武館 五十周年記念誌：近藤勝之 道場開設五十年	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------